

令和5年度 大阪府立枚方支援学校
第3回学校運営協議会

1. 日時 令和6年2月28日(水) 15:20~17:00

2. 場所 枚方支援学校 会議室

3. 構成メンバー

会長	荒木 寛巳 (森ノ宮医療大学 医療技術学部 鍼灸学科 教授)
副会長	三谷 幸生 (枚方市立ひらかたこども発達支援センター 所長)
委員	中口 武 (桜丘校区コミュニティー協議会 会長)
委員	吉田 潤 (社会福祉法人・医療法人 大潤会 理事長 大阪府立枚方支援学校学校医)
委員	中岡 将基 (枚方市障害者就業・生活支援センター センター長)
委員	三重野 明 (大阪府立枚方支援学校 PTA 会長)
校長	西村 誠三
准校長	村上 哲也
事務局	
教頭	水川 久美子、佐藤 賢太
事務長	奥村 真千子
首席	植木 敏幸 (統括)、神庭 真弓 藤原 健太 (教務主任)、和田 恵子 (中学部主事)
指導教諭	森脇 啓仁 (高等部主事)
小学部主事	筒井 香菜子
進路指導主事	小川 裕子

4. 次第 (1) 校長、准校長挨拶
(2) 令和5年度 学校経営計画及び学校評価 (小学部・中学部)
(3) 令和5年度 学校経営計画及び学校評価 (高等部)
(4) 令和6年度 学校経営計画 (めざす学校像 中期的目標) (小中学部)
(5) 令和6年度 学校経営計画 (めざす学校像 中期的目標) (高等部)
(6) 学校教育自己診断について (結果、分析結果、まとめ)
(7) 令和5年度卒業生進路状況
(8) 准校長挨拶

5. 協議内容

- (1) 令和5年度 学校経営計画及び学校評価（小学部・中学部・高等部）
令和6年度 学校経営計画（めざす学校像 中期的目標）（小学部・中学部・高等部）

【学校教育自己診断について】

（委員から）

学校教育自己診断の回収率の減少についてどのように感じておられるか？

（委員から）

単純にフォーム作成ツールのやり方がわからない等、ハードルが高く感じられているのかもしれない。

（委員から）

紙とデータの併用にすると手間が増える。データ入力についての、わかりやすいマニュアルを作成するなど考えられるのではないか。

（学校回答）

質問項目が多いのも、フォーム作成ツールへのアクセスやハードルの高さにつながっているように感じている。まずは、繰り返しアナウンスをしていくことが必要である。

（委員から）

端末上での回答数について減少しているのが残念。運用上の改善を検討してみてはどうか。

（委員から）

オンラインでの回答は過渡期だと思う。慣れるまでは時間を要することと思う。

【進路について】

（委員から）

小学部・中学部では、進路に関する関心はどうか？

（学校回答）

小学部の段階から関心の高い保護者は多い。

中学部では関心の高い保護者も多いが、年度によっても傾向に差がある。

（委員から）

進路については課題が多い。実際に進学して、なじめないケース（共生推進など）があると聞いている。

（学校回答）

スクーリング時などで、むらの高等支援学校と連携をはかりたい。

【安心で安全な学校づくりについて】

（委員から）

避難訓練等、災害が起こった時のために、児童生徒の備蓄品について聞きたい。薬についてはどうなっているか？

(委員から)

個人に対応した薬の備蓄は難しいと考える。年齢により量も変化する。学校だけでなく地域医療の課題であると考えます。

(委員から)

枚方支援学校には薬以外の備蓄品はあり、ローリングストックを行って更新していると聞いている。

(2) 学校教育自己診断について (結果、分析結果、まとめ)

【教員の働き方改革について】

(委員から)

教員の働き方改革のところでは、教員同士のサポート力が強みとのことだが、ICTの活用で仕事量のコントロールをするなどの工夫もいるのではと思う。

(委員から)

以前から教員の働き方の課題については出てきている。今回どのような新たな取り組みをされたのか知りたい。

(学校回答)

ICT活用、会議の精選、休憩時間の確保、電話受け付け時間の設定等があるが、子ども達の授業・教材準備が十分にできるだけ余裕が出るまでにはなっていないと感じている。

(学校回答)

事務作業量をどう下げるかが課題である。自分の裁量で仕事をコントロールすることができればとも思うが難しい。児童生徒数の増加がボディーブローのように効いてきている。個別の児童生徒への対応も多く、教員の授業準備の時間もない。みんな子どものことを思って頑張ってしまう。

(委員から)

枚方支援学校の強みとして挙がっている教員間のサポート力があるのは大きい。

(委員から)

時間がない中で、責任感、使命感がある。生徒のために…となってしまう。教職員間の信頼関係の数値が高いのは素晴らしいことだと思う。

(委員から)

教職員のみなさんが職場環境を作られている。一人で抱え込むことがないようにされているのだと思う。

(委員から)

教職員の働き方改革については、学校のみにお任せにするのではなく PTA としても協力を

していかないといけないと思う。

【いじめ対応について】

(委員から)

教職員の回答に「わからない」があるが、どう受け止めたらよいか。いじめに関するマニュアルや対応の仕方を考えておられるのですよね。

(学校回答)

身近にいじめ事象が起きていない場合、自分事としてとらえていないこともあるのかもしれない。みんなが自分事として考えていくことが、これから必要だと考える。

(学校回答)

大きな組織であり、事象が起きた時に情報の共有にも時間がかかり、共有しにくいところがあるのではと思う。

(委員から)

いじめはゼロだと言っている学校は危ない。いじめはどこにでも起こりうることで、常にアンテナを張っておく必要がある。

(3) 令和5年度卒業生進路状況

(委員から)

自立訓練が増えてきている。卒業してすぐの就職を望んでおられないケースが増えている。むらの高等支援学校を中3の数名が受験するが、自主通学などの準備をしているのか。

(学校回答)

むらの高等支援学校をめざして自主通学の練習をしている生徒もいる。共生推進校を含めていろいろな進路に広がりが見られる。

6. まとめ

(委員から)

枚方支援学校は来年10周年を迎える。10年目を迎えるにあたり、よい方向に向けて歩んできていると思う。